

2026年4月10日

森とむらの会の政策提言の継承



木俣美樹男 (元財団法人森とむらの会理事)

NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館



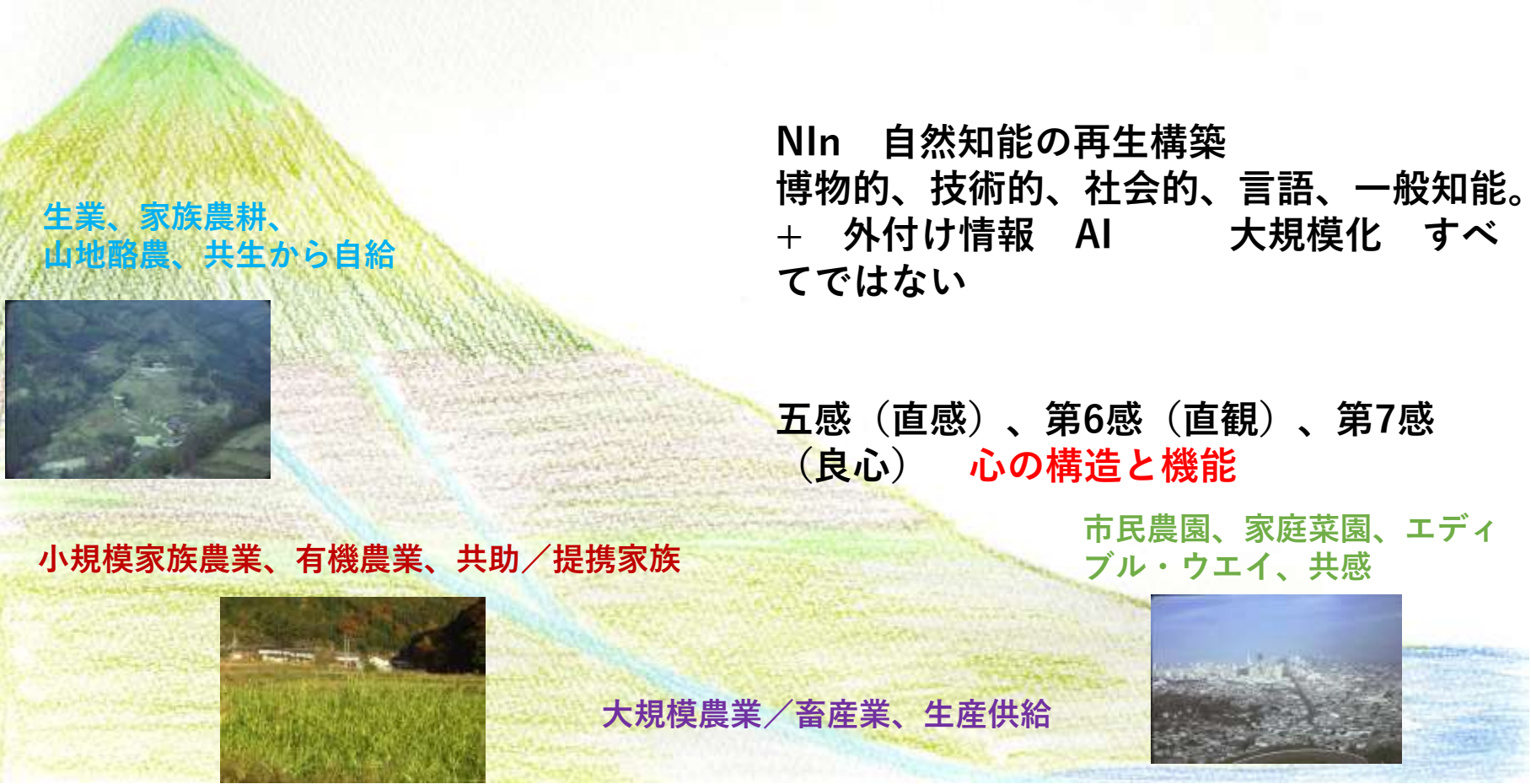
Grains

環境／農林漁業／教育／福祉統合政策

～ 生活環境の基盤再生、食料の自給、教育の再創作
(森とむらの会 2011)

国際政策: 非戦のための
アジア連合 Asian Union

自給知足の誇り、楽しみ、健康長寿に良い



農耕、野良仕事の履歴

子供の頃： 祖父の庭で遊び、花壇を作った。

高校（1965～1967）：**園芸部長**、ラグビー部、科学部、生徒会執行部。

大学理学部（1968～1972）：キャンパスの**山林で焼き畑**。遺伝学研究所でコムギ栽培の手伝い。薬培養実験。ラグビー部、児童文学研究会、アジア・アフリカ連帯委員会。

大学院農学研究科（1973～1974）：祖師谷**農場でトウモロコシ栽培**とタンパク・核酸、ホルモンの定量。

東京学芸大学小金井**農場（彩色園）の管理育成経営**（1974～2014）、雑草や雑穀の山村調査、実験。

小菅村山畑で自給用野菜栽培（2014～2019）

現在、自宅庭で有機野菜栽培

余談 喫緊の課題 環境、農林水産業、教育

第四紀人新世に希望を創る
再びの富国強兵政策に抗う

1) 生活基盤である自然、生業を学ぶ政策を再創作する森林、山村、都市緑地の政策を充実する

2) 教育制度論に終わらず、教育内容・方法を変える。

3) 農耕の起源と伝播仮設の修正提案
穀物の生物＋文化多様性の保全、継承の重要さ

財団法人森とむらの会の提言 2011

日本人の生活は、自然との関係性やその中で育まれてきた豊かな文化性を失ってきた。

森とむらを社会的共通資本コモンズととらえ、新しい森林文化社会を再構築する必要がある。本会は解散したが、調査研究資料は保存してある。

山里を見捨ててきた結果 2025

- 野生獣の出没
- 山火事
- 食の海外依存
- 生物多様性の低下
- 人口減少、限界集落
- 耕作放棄
- 所有者不明土地
- 自然、生業を学べない

多彩な農耕形態に対応する政策

～自給率と潜在自給率を高める

- **世界商品作物農業** **モノカルチャー** **大規模農家**
 主要な商品作物のみに画一化、種子の占有、「知的所有権」
 農耕地の生態的な不安定性、農薬、化学肥料、灌漑
 経済的危険性（災害、戦争など）、スマート農業、農家の倒産、後継者がいない
 ⇒ **現場に即した、きめ細かな食糧安全保障のための政策**
- **自給＋提携家庭** **多種多品目栽培** **小規模農家**
 消費者の好みによる改良品種の導入、地生産地消費
 地域固有の在来品種の保存と復活提案
 ⇒ **地域の食の安全を高める 自家採種、種苗交換の自由**
- **家庭菜園** **クラインガルテン、ダーチャ** **市民農園**
 家族の好みによる品種決定と在来品種の持続的保存
 ⇒ **家族の食の安全を確保する 農地の借地・農地法の改正**
 災害・戦時対応の食料安全保障の基盤整備を進める

自給知足、素のままの美しい暮らし

sobibo

大規模農業 vs 小規模農耕

- 社会的共通資本コモンズ
入会地、地域共同体管理
- コミュニティー農園、市民農園、
ダーチャ、都市農業。
子供向け農学校、農業小学校

- 野生動植物のドメスティケーション；
栽培化、家畜化
- 自然現象をどこまで人間に適用するの
か。ダーウィン主義、社会進化論
- 人間も自然ではあるが、心をもつ存在
である。幸せは自由である
- 人間の自己家畜化を考える
- 希望は満ち足りる食べ物：美味しい食
べ物は素材の栽培、加工、調理の伝統
的な技によって作られる。
- 基層文化（生業）を充実し、表層文化
（芸術）を楽しもう。

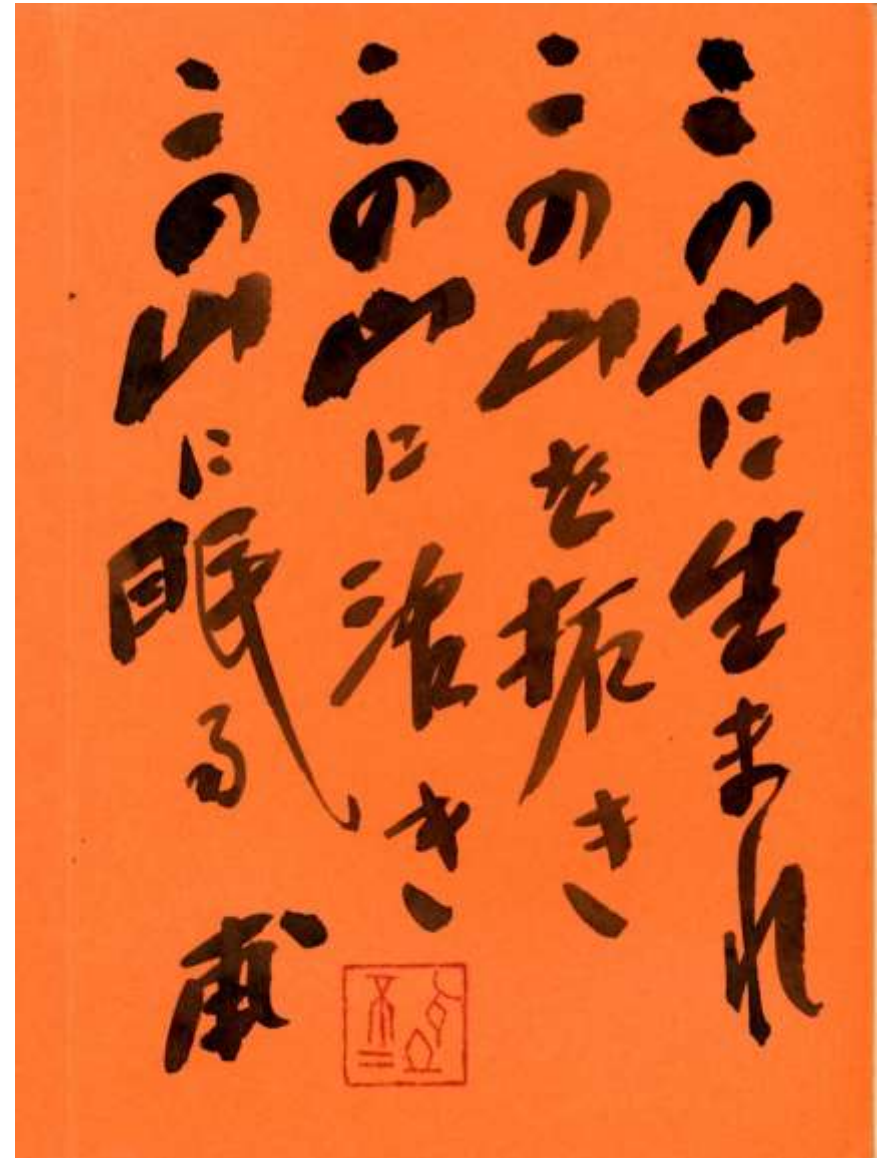
NI n 自然知能 **Natural Intelligence**

概要 現場、現物を大事にする

上野原にゆかりの深い古守豊甫先生（健康・予防医学）や鷹觜テル先生（栄養学）らのお仕事を懐古して、山村の優れた食文化遺産を継承するために麦・雑穀・在来野菜などを栽培し、調理することの大切さをお話ししたいと思います。

1. 穀菜食（素食）のすすめ：古守長寿村、マクバガン・レポート、チャイナ・スタディ。
2. 食文化の多様性：味覚は個人的、家族的、民族的、「国民的」。
3. 日本の生活環境基盤である森林、山村むら、都市緑地政策を創る（財・森とむらの会の志）。

古守豊甫博士懐古； 身土不二



長寿村調査

古守豊甫さん（医学）が、山梨県上野原町（旧桐原村）は穀物・野菜食による世界有数の健康長寿村であることを見いだされてから、雑穀街道の村々には高名な研究者が調査研究のために沢山訪れてきた。

近藤正二さん（東北大学、長寿学）、鷹觜テルさん（岩手大学、栄養学）、光岡知足さん（理化学研究所・東京大学、腸内細菌学）、阪本寧男さん（京都大学、民族植物学）、加藤肇さん（神戸大学、植物病理学）、平宏和さん（栄養学）、橘礼吉さん（石川県立博物館、民俗学）、安孫子昭二さん（東京都埋蔵文化財センター）、松谷暁子さん（東京大学、考古学）、小林央往さん（山口大学、雑草学）、ほか雑穀研究会の多くの研究者。

海外からも、森口幸雄さん（リオ・グランデ・ド・スール・カトリック大学、長寿学）、A.シタラムさん（全インド雑穀改良計画）、S.パンダさん（コルカタ大学、植物学）、L.カンハスワンさん（ラジャバト大学、環境教育）、WHO調査班、ABC取材班、ほか。

マクガバン・レポート (1977)

- マクバガン上院議員が政府に提出した国民栄養問題特別委員会レポート

病気と食事の関係：

- 1) がんは、食事や栄養の摂り方の間違いで起きる『食源病』である。
- 2) 先進国にがん・心臓病・脳卒中などの病気が急増したのは、食生活が悪い方向に変化したからである。
- 3) 二〇世紀初めのアメリカでは、がんや心臓病は珍しい病気であった。

- 改善目標

- 1) 野菜・果実・全粒（未精製）穀物（糖質）の摂取量を増やす。
- 2) 砂糖の摂取量を減らす。
- 3) 脂肪の摂取量を減らす。
- 4) とくに動物性脂肪を減らし、脂肪の少ない赤身肉や魚肉に替える。
- 5) コレステロールの摂取量を減らす。
- 6) 食塩の摂取量を減らす。
- 7) 食べ過ぎをしない。

インド亜大陸を中心において見た農耕文化と発展 栽培植物の地理的起源

農耕形式	ラビRabi農耕	カリフKarif農耕	遊牧	インドの農耕文化複合	稲作農耕	ウビUbi農耕	新大陸農耕	
	地中海農耕文化	サバンナ農耕文化	グレート・ステップ		稲作混成文化	根栽農耕文化	メソアメリカ農耕文化	南アメリカ農耕文化
特徴	西アジア・地中海沿岸起源のムギ、冬作農耕	アフリカおよびインド起源の雑穀、夏作農耕	中央ユーラシアの遊牧	多くを受容した複合農耕	根栽農耕とカリフ農耕とイネの結合	東南アジア起源の根栽農耕	根栽農耕および夏作農耕	
起原地	オリエント	ニジェール川付近および東アフリカ	中央アジアの天山山脈南	インド亜大陸および世界各地	中国南部	マレー半島付近	メキシコを中心に北アメリカからメソアメリカ	アンデス山脈と東斜面低地
分布	地中海地域、オリエント、アフロアジア	サハラ、エチオピア、西インド	中央アジア、パキスタン、インド北西部、アフガニスタン、イラン	インド亜大陸、中央アジア天山山脈南麓地域	東アジア、東南アジアから東インド、スリランカ	オセアニア、マレーシア、インド、中部アフリカ	北アメリカ大陸南部	南アメリカ大陸北西部
人種	コーカソイド	ネグロイド	コーカソイド、混血種	混合、アーリアン、ドラヴィダ、モンゴロイド、オーストラロアジア	モンゴロイド	モンゴロイド	メスティソ	メスティソ
環境	冬雨性地中海気候、平地	夏雨性サバンナ、平地	夏雨性ステップ、砂漠、山麓、オアシス	サバンナ、ステップ、熱帯雨林、平地・丘陵。山地	常緑広葉樹、落葉樹混合林、熱帯雨林、平地・湿地、氾濫原、山地	熱帯降雨林	熱帯雨林	温帯夏雨、山地
作物生態	冬生一年生種子繁殖	夏生一年生、種子繁殖、栄養繁殖	夏生一年生、種子繁殖	混合	生態的一年生、種子繁殖、多年生、栄養繁殖		夏生一年生種子繁殖。多年生栄養繁殖	夏生一年生種子繁殖。多年生栄養繁殖
主要穀物	ムギ類	シコクビエ、モロコシ、トウジンビエなどの雑穀、イネ	キビ、アワ、エンバク	ムギ類、イネ、雑穀	イネ	ハトムギ	トウモロコシ、(サウイ) (マンゴ)	
主要マメ類	ヒヨコマメ・レンズマメなど	ササゲ・フジマメなど	レンズマメ	キマメ・リョクトウなど	ダイズ・アズキなど	キマメ・リョクトウなど	インゲンマメなど	ラッカセイ・インゲンマメなど
主要イモ類		ヤム		ヤム、タロ	タロ (サトイモ)	ヤム、タロ	サツマイモ	キャッサバ、ジャガイモ
主要油料	セイヨウアブラナ、カラシナ、ペニバナ、アマ、オリーブ	アブラヤシ、ニガシード、ヒマ、		混合	アブラナ	ココヤシ、ゴマ	リクチメン、ヒマワリ	カイトウメン、ラッカセイ
嗜好飲料		コーヒー		チャ、	チョウセンニンジン		カカオ	マテチャ
その他の主要作物	野菜類、果物類	メロン、スイカ	アサ、ニンニク、タマネギ、ニンジン、アンズ、リンゴ、ナシ、スモモ、アーモンド、ピスタチオ	野菜類、果物類		バナナ、サトウキビ、果物、香辛料	センニンコク、ワタ、トウガラシ	キノア、センニンコク、タバコ、ワタ、トウガラシ
成立年代	B. C. 8000頃	B. C. 2500頃		B. C. 4500頃	B. C. 4500頃	B. C. 8000頃	B. C. 5000頃	
耕地利用	輪作、グラス・ファロー	連作園耕	夏季遊牧			焼き畑、ブッシュ・ファロー		
播種形式	散播	条播		散播混作、条播間作、移植	移植	点播、移植		
農具	スベード・アード	クワ				堀り棒		
加工	キルン (粉食)	タテギネ精白、 α -澱粉加工		パーボイル加工、	シトギ (湿式製粉)、(粒食)	生食、石焼き		
食料経済	余剰豊富、貯蔵輸送容易	余剰貧弱	自給用			貯蔵輸送困難		
都市国の成立	B. C. 3000頃			B. C. 2500頃	B. C. 1600頃		B. C. 1000頃	B. C. 1500頃

Murdock (1959)、Guyot (1964)、中尾 (1967)、Harlanハーラン (1979)、阪本 (1987) らの仮説を一部加筆修正して改変。

20世紀の主な飢饉による餓死者数

西暦	地域	原因	餓死者数
1900	インド	旱魃	250,000～3,250,000
1918	ドイツ	第一次世界大戦、凶作、カブラの冬	762,000
	世界	戦死者	8,529,000
1921	ロシア	旱魃	5,000,000
1928	中国北部	旱魃	3,000,000
1932	ウクライナ	ホロドモール、政策	2,600,000～10,000,000
1932	カザフスタン	ウクライナに連動	1,200,000～1,500,000
1936	中国	旱魃	5,000,000
1941	ロシア	ドイツ軍の包囲	1,000,000
1941	ギリシャ	ドイツ軍の占領	300,000
1942	中国	河南飢饉	} 日本軍の侵攻 2,000,000～3,000,000
1943	インド	ベンガル飢饉	
1944	オランダ	第二次世界大戦、飢餓の冬	22,000
1945	世界	第二次世界大戦	20,000,000
	世界	戦死者	19,500,000
1944	ソ連	レーニングラード封鎖70万人以上	1,000,000～1,500,000
1947	ソ連	凶作、付属地の制限	1,000,000～1,500,000
	中国	大躍進政策	36,000,000
1965	インド	旱魃	1,500,000
1968	サヘル	旱魃	1,000,000
1975	カンボジア	クメール・ルージュ政策	2,000,000
1996	北朝鮮	水害、苦難の行軍	220,000～3,500,000
1998	コンゴ	内戦	3,800,000
1732	日本享保	凶作、イナゴ襲来	} 日本軍の侵攻 1,000,000
1782	日本天明	凶作	
1833	日本天保	凶作	300,000
1930	東北	凶作	不明
1945	国内外	第二次世界大戦	850,000～1,400,000
	日本	戦死者(上記を含む)	3,100,000
1946	国内	敗戦後、凶作	不明
1993	東北	凶作	0

2020年初頭から2021年の2年間に新型コロナウイルスで約1820万人が亡くなった。これまでに記録された公式統計590万人の約3倍に当たる。

wikipediaで人数書きされている事例

L.Collingham2011ほか

人為災害 世界戦争

表11.2. 日本における雑穀の栽培面積(ha)

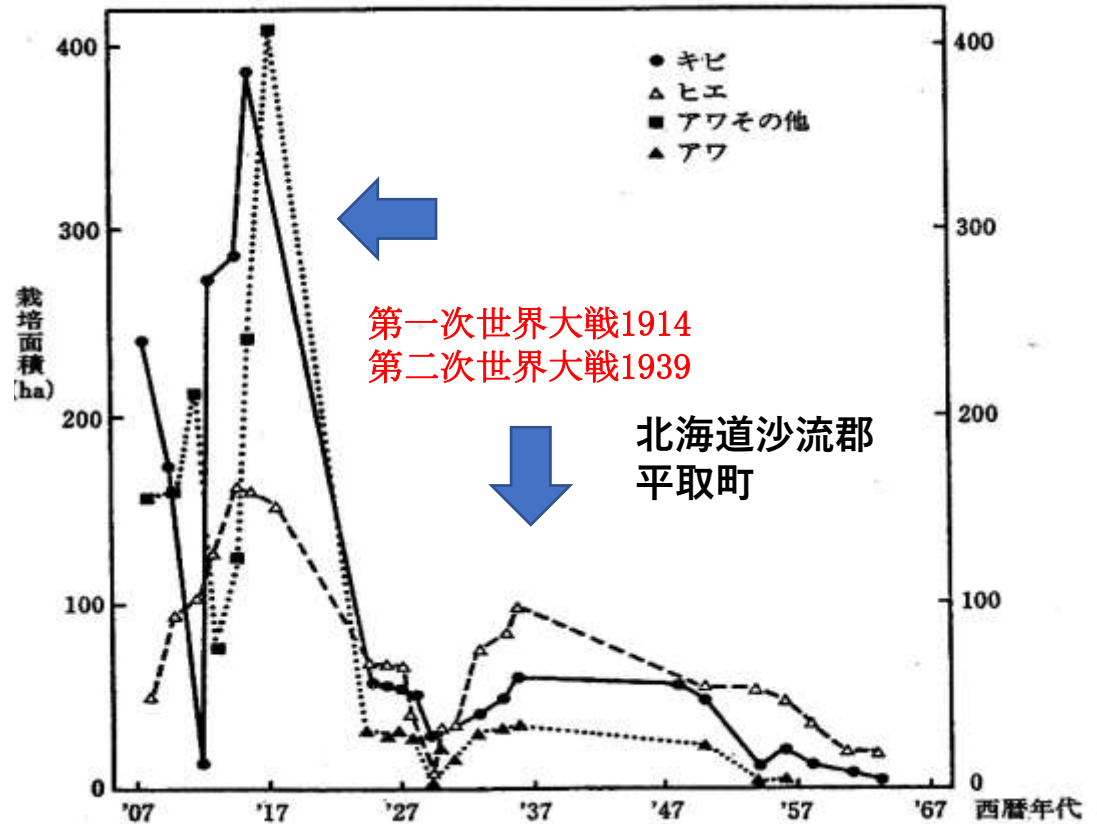
雑穀	1900	1950	1990	2001	2002	2003
アワ	243700	66100	44	50	53	44
キビ	34100	26200	146	169	152	121
ヒエ	71900	33200	290	110	150	156
モロコシ						22
ハトムギ				344	312	358
シコクピエ						trace
合計	349700	125500	480	673	667	701
ソバ				41800	41400	43500
ダツタンソバ						14
アマランサス				15	11	18



日露戦争1904
世界大戦

財団法人農産業振興奨励会2001~2003、新需要穀類等生産・流通体制確立事業実績報告書

農林業センサスには1965年以降統計データがない。ハトムギ、シコクピエは減反の代替として水田栽培奨励。



小原哲二郎、『稗』
1945年8月5日

中央食糧協力会編『郷土食慣行調査報告書』
1944年
5帝大による緊急調査
人新世の始まり

土蔵の中の穀槽、飢饉に備えたアワとオカボ2品種の保存（相模原市佐野川）



ロシア侵略戦争時のウクライナの食料生産

ウクライナと日本の比較 FAOSTA2020

作物名	ウクライナ		日本	
	国土面積 604,000km ²	人口43,734,000	国土面積 378,000km ²	人口126,476,000
	栽培面積 ha	生産量 tonnes	栽培面積 ha	生産量 tonnes
冬作				
コムギ	商品穀物 6,564,500	24,912,350	212,600	949,300
オオムギ	2,374,500	7,636,340	63,600	221,700
ライムギ	生存穀物 137,800	456,780		
カラスムギ	199,000	510,000	165	317
夏作				
トウモロコシ	5,392,100	30,290,340	62	164
水稻	11,200	60,680	1,462,000	9,706,250
モロコシ	47,200	106,560	生存穀物	
雑穀millet	159,100	256,050	295	247
ソバ	84,100	97,640	66,600	44,800
ダイズ	1,364,300	2,797,670	141,700	218,900
ヒマワリ	6,480,900	13,110,430		

ウクライナの雑穀は主にキビ、日本はヒエ、アワ、キビ

自己家畜化に抗う

ヒトの自己家畜化	人類は文化の創造者であると同時に担い手であり、自らを文化環境の中に置いていることである。人類の場合は単なる家畜化ではなく、自らを家畜化してきたことになる。	定義
友好性の進化	自然淘汰によって、異なる種や同じ種に対する友好性という性質を獲得して、ほかの人類が絶滅する中で、繁栄できた。	楽観的見方
狩猟採集民の食生活	タンザニアのハッザのような狩猟採集民は毎日、食べ物を探しに出かけ、野営地に戻って調理や食事をし、仲間と交流し、睡眠をとる。女性は地面から掘り起こしてきた塊茎類や、集めてきた果物を分け合う。男性は貴重な肉や蜂蜜を持って帰ってくる。類人猿も食べ物を集めているときに分け合うことはあるが、食べ物をすみかへ持ち帰ってくるのは人間だけだ。	統合された心の事例；自ら体験的に考える
都市民の食生活	日本の都市生活者は、食料をスーパーマーケットで買い、自ら調理することさえも少なくなった。核家族や単身世帯が多くなり、個別に調理された食品、インスタント物、冷凍品を買うか、食堂で食べるかが多い。	自己家畜化した心の事例；外付け情報装置に依存する
偏見	人々の1つの集団に対する否定的な感情。	差別
邪悪な力	脅威を感じたときに自分の集団以外の人々の人間性を無視できるようになった。人間性を無視することは、偏見よりもはるかに邪悪な力だ。よそ者に対して共感できないと、彼らの苦しみを自分のことのように感じない。攻撃は容認される。人道的でない扱いをするように求める規則や規範、道徳は適用されなくなる。	悲観的見方 ジェノサイド
動物の自己家畜化症候群	遺伝的適応の結果として従順になる。単一の種の中で、他種に促されることなく、反応的攻撃性が低下する過程を自己家畜化と呼ぶ。（家畜は文化の影響を受動的に受ける。）	ヒトの自己家畜化とは区別

第七感の機能研究が必要

(M. スタウト2005)

第七感の機能の検討

仮の2分法

良心／善	対	邪心／悪
思い遣り		嫉妬
誠心誠意		羨望
公正		保身、私利私欲
知足		不満
真善美		名誉、権力、金銭
話し合い、共感・妥協		言論の不自由
非暴力不服従		暴力抑圧
自由、平等、友愛		法律の支配、差別
信仰		宗教
平和		戦争
個人、家族		集団（ムレ、ムラ、シマ）、地域社会、都市国

良心を鍛える

雑穀およびモロコシの栽培上位10 (FAOSTAT2022)

国	雑穀		国	モロコシ	
	栽培面積ha	生産量t		栽培面積ha	生産量t
インド	8488150	11849190	スーダン	7000000	5248000
ニジェール	6780623	3656958	ナイジェリア	5700000	6806370
スーダン	2500000	1675000	インド	3800810	4150570
マリ	2104437	1844664	ニジェール	3786257	2100697
ナイジェリア	2000000	1941220	ブルキナファソ	1958672	2013869
チャド	1194064	694196	アメリカ合衆国	1849430	4769960
ブルキナファソ	1043257	907745	エチオピア	1660000	4200000
セネガル	969693	1097033	マリ	1639394	1603394
中国	900310	2700495	メキシコ	1332929	4754169
エチオピア	455000	1150000	ブラジル	1043480	2923318
日本	285	251	日本	0	0

アフリカ起源のモロコシがアメリカで大量に栽培され、輸出されている。日本は200万t程輸入している。



日本の穀物の生産量および輸出入量

FAOSTAT2024

作物	栽培面積ha	生産量t	輸入量t	輸出量t
イネ	1,458,000	10,142,000	3,011	3.12
イネ米 (2025 農水省)	1,367,000	7,181,000	60,000政府 枠	42,613
コムギ	231,800	1,029,000	5,214,365	0
トウモロコシ	63	168.9	15,276,693	3.58
オオムギ	65,000	185,600	1,169,541	23.89
ライムギ			8,751	0
モロコシ			122,071	0
雑穀	281	251.2	8,220.30	0
ソバ	69,000	40,400	34,381	9.9
ダイズ	153,900	252,400	3,171,501	153.61
エンバク			42,039.55	9
キノア			479.02	0

生きるための食料を生産せずに、おおかたを商品作物の輸入に依存する

自然災害 岩手県の事例 治に居て乱を忘れず 孔子

冷害：やませ

1993年は全国的に米の収穫量が少なかった。特に北海道と東北地方の太平洋岸の県の作況指数が40以下で著しい被害を受けた。これらの地方でも北海道南部と青森県、岩手県の太平洋岸では作況指数が1桁台で、いままで経験したことが無い大凶作であった。堀口郁夫（1994）自然災害科学 J. JSMDS 13：281-289

東北全体で56、青森28、岩手30、宮城37、山形79、福島61。

水稻の被害額は4,690億円。



水田；白い不稔の穂が多い

津波を免れた在来品種

海岸は津波被害にあったが、丘の上は大丈夫であったので、在来作物の品種は幸運にも保持できた。雑穀と麦、豆類の自家採種。

東日本大震災後の海浜水田跡の雑草、陸上の畑のキビ、モロコシ（陸前高田市2012）



農耕farmingと農業agricultureの比較

項目	農耕	農業
経済	自給、生業	産業、資本多投下
耕作面積	小規模	大規模
従事者	家族	家族+小作人、季節労働者
生産物	生活食料	租税、商品、戦略物資、バイオ燃料
作物	多品種少量生産	特定作物大量生産
栽培方法	有機的	無機的、農薬・肥料多用
生物文化多様性	高い	画一的、低い
農耕文化基本複合	維持継承	衰退か無い
社会形態	地域共同体	国行政体
自尊、誇り	自力自立、自律	自己家畜化の進行、他力他律

食料生産の比較

大規模農業／プランテーション	小規模農耕／ホームガーデン
大企業／金儲けのため	家族／生きるため
産業／貿易商品	生業／自給食材
主要種／少数改良品種の単作	多数種／多数在来品種の多数作
大量生産／消費／廃棄	少量生産／大切にいただく／循環
生物文化多様性の衰退／持続が困難	生物文化多様性の保全／持続可能性が高い

穀物や芋・豆、野菜の小規模自給
すすめ

家族農耕の

私は、できるだけ

穀菜（素食）の小規模自給家族農耕。

自家で調理して、惣菜は買わない。

病気にならない。

病院には近づかない。

薬には頼らない。

サプリメントは飲まない。

医薬より、美味しくくて質の良い食べ物。

ただし、カレー、辛いものの好きはやめられない。

社会変容の3様態： 移行、改革、革命

無関心でいれば、社会は悪く変わり、さらに野蛮になる。

ゆっくり、ささやかでも良く変える意思を持ち、生き物の文明へと着実に移行することだ。

素のままの美しい暮らし **sobibo**



参考資料サイト 自選集：詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

環境学習原論―増補改訂版（自選集I 2021）

www.milletimplic.net/weedlife/quatplants/quatplantsfinal.html

第四紀植物（自選集II 2022）

www.milletimplic.net/weedlife/quatplants/quatplantsfinal.html

日本雑穀のむら（自選集III 2022）

www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html

雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から（自選集IV 2023）

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/imbook.html>

雑穀の起原と伝播<縮刷版>（自選集V 2025）

生き物の文明への黙示録（自選集VI 執筆中一部公開）

<http://www.milletimplic.net/essey/allessay.pdf>

Essentials of Ethnobotany on Millets (author's edition Vol. VII)

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/indianewbook/essentialsOK.pdf>

参考動画サイト；

・OKシード・プロジェクト学習会、雑穀街道をFAO世界農業遺産に

<https://www.youtube.com/watch?v=jucNJsWpivI>

・家族農業プラットフォーム・ジャパン

[FFPJ連続講座第21回；日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか](#)

・関連動画アーカイブがあります。

[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)